

Smile Woman!

インタビュー⑤6

この人の仕事のカタチ
どこか置いてある「仕事」をしているあの人にズームアップ。

Masako Ashida

手織絨毯と家具で ぬくもりのある生活を

寒い季節には欠かせない絨毯（じゅうたん）。洋風のイメージがあるが日本家屋にも自然になじみ、人々にぬくもりを届ける。絨毯の中でもイラン南部の遊牧民によって800年あまり受け継がれた歴史のある素朴な手織絨毯「ギャツペ」に注目し、販売に力を入れているのが津山に本店をかまえる「さしこう」。岡山県南の方にもギャツペの良さを感じて欲しい—との思いから昨年岡山市北区大元へ新店をオープン。木の温もりにつつまれ落ちついた店内で迎えてくれるのは店長の芦田雅子さん。

まずお客様の好みを知る

「もともと家族経営の会社なので私しかいなかったんです」——と店長就任の経緯を笑って話す。店内にはギャツペの他に群言堂の洋服を取り揃えている。流行を追わず、織りや生地こだわった群言堂の服を着こなす芦田さんの姿からは優しさが漂う。苦勞という言葉は似つかわしくないが、「半年先の服の仕入れやお客様の好みの把握など大変でした」。オープンから一年半が経ち顧客管理、仕入れも慣れてきたが「まだまだこれからです。お客様の要望にできるだけ応えたいですね」と穏やかに飛躍を誓う。

心地よい生活を提案

「ギャツペ」は主に社長と専務が現地イランへ出向き、良いものだけを仕入れてくる。「安定した品質

さしこう大元店
店長

芦田 雅子さん



すると胸が高鳴る。「大元店でも本業の家具とそれに相性の良い絨毯をトータルで提案していきたい」と今後の夢を語る。「日々の暮らしを大切に送って欲しいから」——常に心地よい生活を提案し続ける。

一人時間、夫婦時間を大切に

大元店の店長を務める傍ら、本店へ手伝いに入ることもしばしば。各地で開催されるイベントへも積極的に参加しギャツペに触れてもらう機会を増やしている。今月は早島町「いかしの舎」で開催の「ギャツペ展」で色とりどりのギャツペと共にお客様を迎え入れる。お客様とのふれあいを大切にする彼女だが「二人で何かに打ち込む時間も好きなんです」と休みには読書や編み物に没頭する。また「主人と映画を観に行ったり、「Begin」のコンサートに行くなど夫婦水入らずの時間も楽しんでいる。